

令和6年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立 六月中学校 校長 宮下みどり

1 学校教育目標

- ① 礼儀を重んじ、他を思いやる生徒
- ② 自ら考え創造する生徒
- ③ 心身を鍛え根気強く成し遂げる生徒

2 現状の学校図書館の課題

- ・ 図書館利用者の固定化（本を好きな生徒しか利用していない）
- ・ 1人1台端末による、調べ学習を図書館で行う生徒の減少

3 今年度の学校図書館の重点目標

- ① 学校図書館を活用し、読書の楽しさを教え、心豊かな生徒を育てる。
- ② 学校図書館の情報を効果的に活用し、主体的に学ぶ生徒を育てる。
- ③ 学校図書館を活用し、自分を表現できる生徒を育てる。
- ④ 読書に親しみ、読書習慣と読書力をつける。

4 今年度の重点的な取組

- ・ 図書委員会を活用し、ポスター制作や図書館おみくじなどの施策をとり、図書館の利用者を増やす。
- ・ 授業で図書館を利用し、「学習・情報センター」として全生徒が図書館を訪れる機会を作る。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館の図書や資料を活用して取り組む単元等）
国語	①「情報を整理して書こう」（図書館の蔵書からテーマを選び、説明文を書く）
国語	②「ビブリオバトル」（図書館の本を使ってビブリオバトルを実施）
国語	③News&Books （月に1回程度、図書館にある本の感想文を書く）
総合	①③宿泊行事の事前学習/現地の訪問先の調べ学習

実践の評価

各学年の国語科の授業で図書館を活用することができた。特に2学年のビブリオバトルでは、秋の文化祭で全校生徒に発表することができ、図書館の利用者増加の1つの要因となった。一方で、国語科の授業でしかほとんど活用する機会がなく、生徒が「学習・情報センター」として活用することが少なかった。1人1台Chromebookを支給されている中で、書籍による情報収集の必要性や良さを、様々な教科や単元で伝えていくことが課題である。

6 図書館運営計画

(1) 日常的な取り組み

- ・朝読書を通して読書時間の確保
- ・給食とのコラボ企画として、本に出てくる料理を給食で提供

(2) 主な行事等の取り組み

- ・運動会や百人一首大会などの行事に合わせたオススメ本の紹介

(3) 図書委員会などの取り組み

- ・図書館利用促進のポスターや、図書館おみくじの制作など

(4) 環境整備の取り組み

- ・蔵書配分比率の国基準に基づき、選書・購入、整備を行う

(5) 司書・外部との連携

- ・公共図書館の配架サービスを利用し、1人1冊書籍を利用する環境を作る。
- ・年度初めのオリエンテーションを実施し、図書館利用の入り口を広げる。

実践の評価

例年の取り組みに加え、図書館マスコットキャラクターを募集して決めたり、朝読書と関連した読書リストの作成をしたりすることで、昨年 2414 冊→本年 2591 冊と貸出冊数を増やすことができた。しかし増加率としては小さく、また一部の生徒が多く借りている状況があり、多くの生徒に読書習慣がついているとはいえない現状である。普段あまり本を読まない生徒や、本を読むことに苦手意識がある生徒に対しても、図書館に行きたくなるような施策を考えることが必要である。

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	全学年・全学級にてオリエンテーションの実施	夏休みまでにオリエンテーション 100%実施	達成(100%実施)
②	利用者（貸出冊数） 前年比 20%増	1人あたりの貸出冊数 10.3冊/人	達成 (1人あたり 10.8冊)
③	図書館を使った探求的な学習を授業内で行い、ICT機器と併用して情報活用を行う。	図書館を使った調べ学習の授業：年3回	未達成(1回)

8 学校図書館全体に関する自己評価

国語科と図書委員が中心となり、様々な施策をすることで図書館の活用を推進することができた。一方で、授業での活用（教科や単元）が限定的であったり、単発での施策が多かったりしたために、生徒が主体的に図書館を活用する状況には至っていないという課題がある。

次年度は今年度の取り組みを継続するとともに、国語科以外の図書館利用の活用を促したり、朝読書と関連付けた読書リストを1年間書き溜めたりするなど、連続した読書活動を全生徒ができるよう方策を考えていきたい。